

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤラーバの出現数が多い海域があります

1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは奥内沖で2月21日に12.5個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) キヌマトイガイ (通称：コメガキ)

ラーバは奥内沖で2月21日に0.8個体/m³、久栗坂沖で2月15日に21.1個体/m³、野辺地沖で2月23日に53.9個体/m³、川内沖で2月15日に65.6個体/m³見られました (表1、図3)。

(2) ミネフジツボ (通称：シロガキ)

ラーバは見られませんでした (表1)。

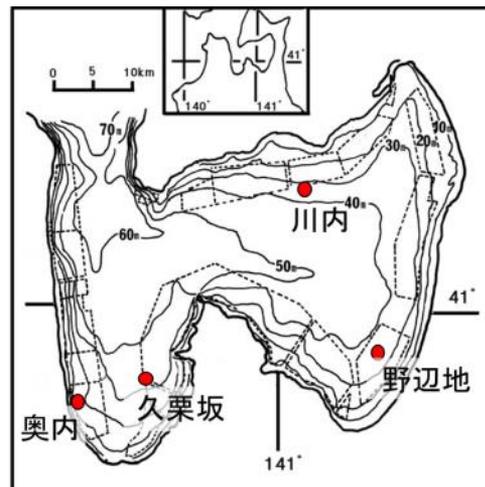


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層の水温は西湾で8℃前後、東湾で5℃前後です。

(1) ユウレイボヤ

ラーバ累積出現数が10個体/m³以下の場合には付着が少ないことが分かっています。奥内沖の累積ラーバ数が28.4個体/m³と10個体以上になっており、分散済みのパールネットにユウレイボヤの付着が見られています。**大量付着により、今春の出荷作業の効率が低下する可能性**があります。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

(2) キヌマトイガイ

ラーバが継続して出現していることから、今後、**籠や耳吊り、マボヤの採苗器への付着が進む**ものと思われます。

(3) ミネフジツボ

今季はラーバの出現数が少なかったことから、貝への付着はほとんどないと思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ミネフジツボ	ムラサキガイ	キヌマトイガイ
奥内沖	R6.2.21	12.5	0.8	0.0	0.8	0.8
久栗坂沖	R6.2.15	0.0	0.0	0.0	21.7	21.1
野辺地沖	R6.2.23	0.0	0.0	0.0	34.4	53.9
川内沖	R6.2.15	0.0	0.0	0.0	71.1	65.6

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

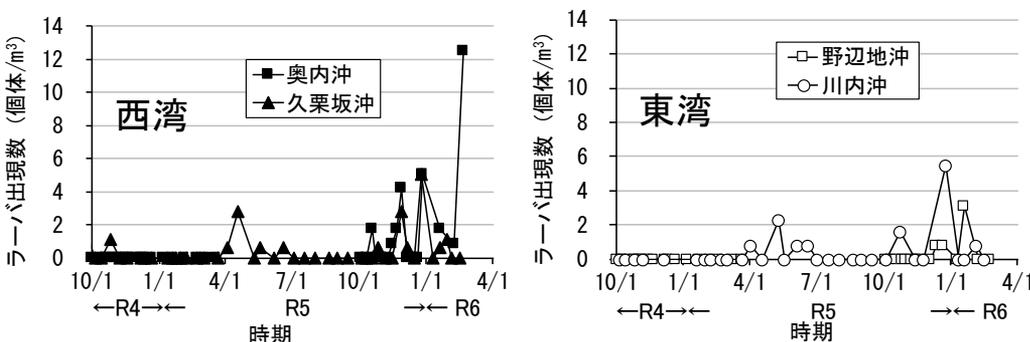


図2 ユウレイボヤ出現数の推移 (令和4年10月～令和6年2月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

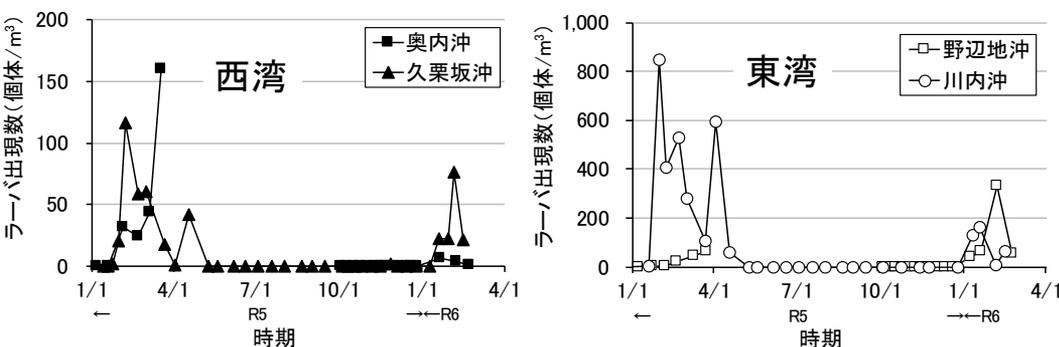


図3 キヌマトイガイ出現数の推移 (令和5年1月～令和6年2月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 915個体/m³、東湾 4,483個体/m³

